

バイオマス発電によるオフサイト型VPPAを締結 ～年間約8,000トンのCO₂排出量削減を見込む～

株式会社東海理化（本社：愛知県丹羽郡大口町 代表取締役社長：二之夕 裕美）は、再生可能エネルギーの導入を加速させるため、中部電力ミライズ株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役：神谷 泰範）とバイオマス発電所を活用したオフサイト型VPPA※を締結しました。

※VPPA：Virtual Power Purchase Agreementの略。企業と再エネ発電事業者が、電力の供給と環境価値の取引を行う契約形態の一つ。敷地外に設置した再エネ電源で発電された電気由来の環境価値（CO₂排出量ゼロであることを示すことができる価値）を活用し、実質的な再生可能エネルギー利用を実現できる。

当社では、2021年に「カーボンニュートラル戦略2030」を策定し、CO₂排出削減に向けた様々な施策を推進してきました。これまでも、敷地内への太陽光発電の導入拡大や、2022年12月より中部電力ミライズとのオフサイトPPAサービスの活用など、再生可能エネルギーの活用を積極的に進めてきました。

今回のVPPA締結により、バイオマス発電所から得られる再生可能エネルギーの環境価値を長期的かつ安定的に確保することが可能になり、脱炭素化の取り組みをさらに加速させてまいります。本取り組みにおける環境価値を活用することで、年間約8,000トンのCO₂排出量の削減ができる見込みです。これは、2024年度における当社の総排出量の約20%に相当します。

今後も当社は、再生可能エネルギーの導入をはじめとする環境負荷低減の取り組みを積極的に推進し、カーボンニュートラル社会の実現を目指してまいります。

（ 詳細は中部電力ミライズの記者発表資料をご参照ください。
https://miraiz.chuden.co.jp/info/press/1216501_1938.html ）

■当社関連リリース

- ・東海理化と中部電力ミライズ オフサイト PPA サービス実施に向けた協定を締結

<https://www.tokai-rika.co.jp/release/file/20211117000672.pdf>

- ・オフサイト PPA サービス実施に向けた協定を締結

<https://www.tokai-rika.co.jp/release/file/20221128000728.pdf>